「神様はどこにいるの？」

幼い頃、祖母に聞いた。祖母は信仰心がとても篤い人で、毎日、仏壇と神棚に手を合わせていた。祖母は「雲の上だよ。」と微笑みながら言った。

神様って空にいるのか、と思った。

　小学校５年生になりＹＭＣＡ英語教室に入った。クリスマスの祭典が開かれ、その時もらった聖書が、聖書との出会いだった。聖書を読むと、神様がイエスという人だった時、ひとかけらのパンや魚を五千人分に増やしたり、湖の上を歩く等、すごい力を持っていた。

神様は空にいて、何でもできる人だったんだ、と思った。

　中学生になった。容姿の悩み、友人関係の悩み、進路の悩み･･。悩んでばかりの時代だった。本棚で埃をかぶっていた聖書を取り出し何気に見ると、表紙の裏に、このような時にどの頁を開けばよいか、というガイドがあり、そのうちの一つに「思い悩んだ時に読む項」が書かれていた。示されたとおりの箇所を開くと、

　「思い悩んではいけない。父なる主はあなたが求める前に何が必要かご存知である。ひたすら、天にいます我らの父よ、御名があがめられますように、御国が来ますように・・と祈りなさい。」と書いてあった。そして最後に「私たちの罪をお許しください。」の言葉で閉じられていた。

　神様は空にいて、万能の人だが、お願いしてはだめで、許しを請わなければならない。私の中の「神観」が進化した。

　数年後、『宇宙飛行士が語る神秘体験』という本を読む機会があった。これは、アポロ宇宙船で月着陸した宇宙飛行士が、宇宙の暗闇に浮かぶ地球を眺めている瞬間、自分の横に、目には見えないが「神が自分の真横に、確実にいる！」と実感した、というものだった。神の存在を確信した彼はその後、牧師となって一生神に仕えることになった。

神は宇宙そのもの？私の「神観」がさらに進化した。

　教師になり多くの子ども達のことでの悩み事が増えてきた。学力、人間関係、家庭問題、いじめ、保護者、家庭環境、列挙すればきりがない。しかもどれも深刻で、簡単に答えは出せないものばかり。

　「神は乗り越えられる試練しか与えない。」聖書に示された教えである。私自身、課題に遭遇した時は、精一杯考え、悩み、苦しみ、疲れてぼんやりした時に、ふと答えが浮かんでくる経験をしょっちゅうする。実のところ、こうした経験を繰り返す度に神様は人の心の中に、その人の人格とは別個のものとして存在し、最も適切な答えを教えてくださっているのでは、と思う。

　神様は空にも、宇宙にも、心の中にもいらっしゃる。そして常に私の心に寄り添い、導いてくださる。私の神様は空から宇宙に広がり、最後は心の中に入って来られた。

　神様を探す旅は未だ道半ばだろう。神様を感じようとする心がこの先も錆び付かないよう自分を見つめながら、この旅を楽しみながら生きていきたい。